

兵庫・入佐川遺跡

いるさがわ

- 1 所在地 兵庫県出石郡出石町宮内
- 2 調査期間 第三次調査 一九九四年(平6)六月～一九九五年三月

3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

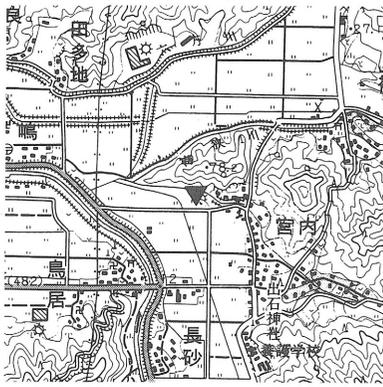
4 調査担当者 大平 茂・中村 弘・岡 昌秀・服部 寛

5 遺跡の種類 水田跡・集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代後期～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

入佐川遺跡は大きく四地点が調査されている。今回紹介するのは、



(出石)

第三次調査にあたり、地区はC四地区、報告書では三区として報告されている地区から出土したものである。調査面積は三五七四㎡である。なお、第一次・第四次調査でも木簡が出土している(本誌第一八号)。当地区からは水田が検出

されているが、当遺跡内の北側、及び遺跡の北に接する宮内堀脇遺跡では、山名氏の此隅山城の城下町と思われる遺構が検出されている(本誌第一八・二三号)。また、当地周辺は『神床文書』の出石神社領神戸郷絵図に記されている。

木簡は、第二遺構面の条里地割に沿った幅約一・七m深さ約〇・三mで検出長約八四mに及ぶ溝SD二〇一から出土した。遺構の時期は平安時代後半に属する。同じ溝から黒色土器、土師器小皿が出土している。また、これに直交する幅約七・三m深さ約〇・六五mの溝SD二〇三から墨書の絵画板が出土しているが、絵の内容は不明である。

8 木簡の積文・内容

(1) □□□□

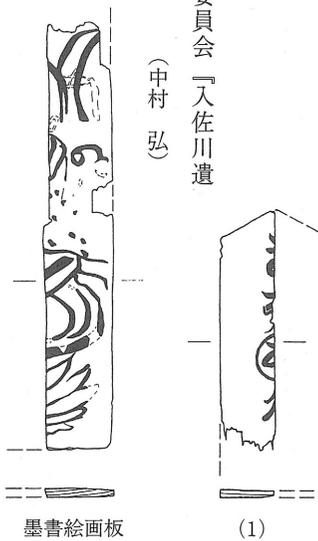
(128)×(29)×5.061

梵字が四文字記されるが、釈読できない。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『入佐川遺跡』(二〇〇二年)

(中村 弘)



墨書絵画板

(1)